

第一回関東小学生作文コンクール 「海外に紹介したい日本のこと」
〈最優秀賞〉

八百万の神

筑波大付属小学校 五年 野澤 征雅

ぼくは「八百万の神」という言葉を海外のみなさんに紹介したいと思います。

日本語を勉強している外国の人たちは「八百万の神」という言葉を見て、どんなふうを読むと思いますか？ ぼくは「はっぴやくまのかみ」と呼んでいました。でも、お母さんが「やおよろずのかみ」と読むと教えてくれました。そこでインターネットで、その言葉を検索してみました。「八百万」というのは数の多いことの例えで、『八百万の神』とは自然の物のすべてに神様が宿っていて、人間に恩恵をあたえてくれる守ご神でもあるが、たたることもあり、おそれられていた。」ということでした。『恩恵』は恵みのことで、人間をこえた大きな力からあたえられるありがたいもの。」で『たたり』とはわざわいをあたえること。」という意味でした。大むかしの日本人は自然のものや天気の中に神様がいて、川や海でとれる魚介類や海草、山や野原でとれる動植物の全ては神様からのありがたいプレゼントで、ときどきおこる火事や雨風、雷などによる災害は、おこった神様のたたりによるものと考えられていました。お米の一粒一粒にさえ七人の神様が宿っていると信じられていました。そして七世紀に仏教が、一六世紀にキリスト教が伝えられました。現在、日本人の多くは、あまり神様の種類を考えずに生活をしていて、十月にはハロウインを、十二月にはツリーやリースをかざってクリスマスを楽しみます。その後すぐに角松や鏡もちをかざり、おせち料理を用意して年神様を迎え、お正月を楽しみます。何かの神様を強く信じている人たちが見たら「日本人はなんていいかげんなんだ」と思うかもしれませんが、もともと「八百万の神」に守られてきているので、どれか一つにしぼることなくいろいろな神様を受け入れる

ことができるのです。

むかしの日本人が便利に進化した今の世界を見たら、そこにも神様を見つかるのかもしれない。海外のみなさんも、古い神様達と最新の神様達を合わせた「八百万の神」が待つ国、日本にどんどん遊びに来て下さい。

きつと、いろいろなところにいる神様達が楽しませてくれると思います。

◎審査委員長からのコメント…

「テーマについての調べと、独自の視点をもって世界の神々も仲間入りさせて、八百万の神を紹介した点が面白く、構成も良かったです。」